

上演 1

2024年7月31日 1校目
九州ブロック

鹿児島県立伊集院高等学校

「仕事のお父ちゃん」

第48回全国高等学校総合文化祭
第70回全国高等学校演劇大会

講評文

生徒講評委員会 担当委員

岐阜県立岐阜各務野高等学校

上松芹奈

この作品は「どんなところからでもやりなおせる」ということを私たちに強く訴えかける作品だった。

舞台は大阪。洋食店で働いていた主人公の正次は、独立してお好み焼き屋を開いた。そして、罪を犯した若者を雇い、居場所を与え、愛情と情熱を持って接していく。劇中にとっても印象的だったのは、「ひっくり返せー！」というセリフだ。周りの人が手を差し伸べることによって人は過去にどれだけ悪いことをしても、人生をひっくり返せる、変われるという希望を感じた。乾物屋での丁稚奉公でいりこをふるいにかけていたら、網目から落ちないように小さないりこが引っかかっており、それを見て「オレも絶対、あのいりこみたいにしがみつく。」と強く思うシーンがある。そんな姿から、正次のどんな人間でも見捨てないという、諦めない心も垣間見えた。

演出面では、音響や照明で長い人生や、場所と時間の変化を表現することに効果的に使用されていた。また舞台が大阪ということもあり、コミカルな言動は見ている私たちを惹きつけた。講評委員の中で話題に上がったのは、手の使い方だ。アヤの父と正次で手の使い方が違い、アヤの父は暴力を振るい、正次は仕事とか新たらしいことを始めるために使っていた。人と人との距離感や手に焦点がいくように演出されており、特にマキがギターを弾きながら歌うシーンでは、さまざまな出来事を通じて築かれた信頼関係が表現されており、とても感動的だった。

仲間を信じて諦めずにいきたい、愛を持って関われば自分も相手も変わることが出来る。と語る講評委員もいた。信頼や愛情、諦めないことの大切さを強く感じさせ、私たちの人生に大きく影響する素晴らしい作品だった。

